

## まちライブラリー提唱者の磯井純充が 第24回図書館サポートフォーラム賞を受賞

まちライブラリー提唱者の磯井純充が第24回図書館サポートフォーラム賞を受賞し、2024年5月1日に日本教育会館で授賞式が行われました。

図書館サポートフォーラム賞は、1999年より開始され、下記の価値ある活動、図書館人としての業績に対し、個人を対象として表彰されます。

- 1、図書館のなかで目立たないけれど重要な業績を上げられた方
- 2、国際的に顕著な貢献をされた方
- 3、図書館の価値、意義を社会に広く訴えた方

今回の受賞者は、多言語絵本の会 RAINBOW の代表である石原弘子さん、東京都立中央図書館資料保全専門員の眞野節雄さん、そして、まちライブラリー提唱者の磯井純充の3名でした。

表彰式で表彰委員長を務められた跡見学園女子大学の水谷長志氏は、三者三様の活動に対し「本と図書館の世界とつながりながらその世界を拡張させた。本と図書館をめぐって領域を拡張することが、その本来の核となる本とは何か、図書館とはなにか、本質への想い巡りにおいて、その想いの変容と深まりに大きな影響を与えてくれている。その領域の拡張は自由な気配を伴っており、大きな勇気を与えられたと感じられた。本と図書館の世界の拡張は、あらためてライブラリーという世界、本という世界が、それら世界の外環に対しても、つながりながら新たな活動を誘発するだけのふところの深さを持ち得ているという気づきを与えられるものであった」と講評しました。

授賞式で磯井は「小さな私塾として初めた文化活動が企業で大きく育ったが、人事異動で離れることになった。ライフワークは組織のなかではできず、自分のなかで自分の活動は育てていかなければいけないことに気付かされ、いろんな模索をして2008年に生まれ故郷の小さなビルの一角で「まち塾@まちライブラリー」をたちあげました。本当の仲間と自分が受け入れられる場所を作りたいとはじめました。10数年経ってみたら、自分と同じ気持ちのある方が自分の活動として広げてくださって1100を超えるまちライブラリーになっています。私が始めた活動ではありますが、いろいろな思いのある方たちが、活動を広げてくださいましたし、広げたというよりは自分の活動としてやっておられる。それは決して大きな目標ではなく、ちょっとだけ小さな夢を実現させようとして歩いていらっしゃる、その道具として「まちライブラリー」があったのではないかと思います。そこには「本」が持つすごい力があつた感じがします。今回の受賞を糧にして、ひとりでも元気になってもらえるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました」と挨拶。



「まちライブラリー」のオーナーのみなさん、利用していただいているみなさん、支えてくださっているスタッフのみなさんのおかげの今回の受賞だと感謝しています。